

サステナビリティ 経営の実践

基本的な考え方

現在、世界はさまざまな社会課題に直面しており、持続可能な社会の実現に向けて政官民を挙げた取組が進められています。

SMBCグループでは、グループCEOを委員長とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、経営トップの強いコミットメントの下、サステナビリティ経営を推進しています。

持続可能な社会の実現に向けて

SMBCグループでは、これまで以上に社会の健全な発展に貢献していく姿勢を明確化するため、経営理念に、「社会課題の解決を通じ、持続可能な社会の実現に貢献する」を追加しました。

経営理念の改定と併せ、持続可能な社会の実現を目指す上での基本姿勢として、新たに「SMBCグループ サステナビリティ宣言」と、2030年までの10年間の計画として「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」を策定し、サステナビリティの実現を目指しています。

過去

三井、住友の先達のサステナビリティへの意志

「三井」、「住友」の400年にわたるサステナビリティの実践を受け継ぎ、緑の地球を守る企業市民として「環境」、そして社会の一員として「コミュニティ」、「次世代」をマテリアリティに据え、サステナビリティの実現に貢献しています。

●商慣習にイノベーション ●金融インフラの重要な担い手

三井 の先達



浮絵駿河町呉服屋図
(公益財団法人三井文庫所蔵)

●銅精錬に技術革新 ●植林により山に豊かな緑を

住友 の先達



左:明治14年別子銅山全景(旧製錬吹火之図)(住友史料館所蔵)
右:現在の別子銅山全景(住友林業株式会社所蔵)

SMBCグループ サステナビリティ宣言

我々、SMBCグループは、三井、住友にルーツを持つ企業グループとして、
先達が重んじたサステナビリティへの意志を受け継ぎ、
社会において我々が重点的に取り組む課題を設定の上、
サステナビリティの実現に向けて行動していきます。

現在

現状の認識と我々の役割

重点課題 (マテリアリティ)

環境

目指す社会が
存在するための前提

コミュニティ

目指す社会を円滑に
存続させる潤滑油であり
セーフティネット

次世代

目指す社会を
より良いものにし
次の世代に渡す存在

2020 ~ 2030年

SMBC Group GREEN×GLOBE 2030

計画の柱

- 1 サステナビリティの実現に向けたお客さま・社会への取組
- 2 サステナビリティ経営を支える社内への取組
- 3 投資家等とのコミュニケーションの向上

目標例

グリーンファイナンスの取組	CO ₂ 排出量削減の取組
10兆円実行	30%削減
	(三井住友銀行 2018年度対比)

環境・社会課題に関する
コミュニティの立ち上げ

金融経済教育の提供

累計**150万人**

目指す社会

サステナビリティの定義

現在の世代の誰もが経済的繁栄と
幸福を享受できる社会を創り、
将来の世代にその社会を受け渡すこと

サステナビリティが
実現された社会

サステナビリティ経営の実践

Environment

環境への取組

地球環境は、地域・世代を超えた人類共通の財産であり、健全な地球環境の維持は持続可能な社会を実現する上での大前提であると考えています。SMBCグループでは、気候変動をはじめとするさまざまな環境課題と向き合い、事業を通じて環境課題の解決に貢献することで、将来の世代に豊かな地球を受け継ぐ努力を続けていきます。

サステナブル・ファイナンスの推進

SMBCグループは、本業を通じた環境・社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。特に環境においては、環境関連分野に特化したグリーンファイナンスについて、2029年度までの10年間で10兆円取り組むことを目標として掲げています。

たとえば、太陽光や風力のような自然の力を原動力とする「再生可能エネルギー」の発電プロジェクトにおいては、三井住友銀行による融資、SMBC日興証券による出資、SMBC信託銀行による発電設備や敷地の受託、三井住友ファイナンス&リースによる発電設備のリース等、各社それぞれの個性を活かし、総合金融グループ一体となって推進しています。

ホールセール事業部門内に新設した「サステナブルビジネス推進室」や、SMBC日興証券の資本市場本部内に設置している「SDGsファイナンス室」等を中心に、金融を通じてお客さまとともに環境・社会課題の解決を目指しています。

投融资におけるESGを考慮した運営方針

SMBCグループでは、環境や社会へ大きな影響を与える可能性が高い事業・セクターへの対応方針を公表しており、主要子会社（三井住友銀行、SMBC信託銀行、三井住友ファイナンス&リース、SMBC日興証券）において、それぞれのビジネスに沿う形で導入しています。

今後もお客さまをはじめとするステークホルダーとの対話を重ね、外部環境を踏まえた見直しを随時検討していきます。

方針を公表している事業・セクター

- 石炭火力発電 ●水力発電 ●石油・ガス ●炭鉱採掘 ●タバコ製造 ●自然保護地域
- パーム油農園開発 ●森林伐採 ●クラスター爆弾やその他殺戮兵器の製造

目標: グリーンファイナンス実行額

10兆円 (2029年度まで)



天北ウインドファーム
提供: 株式会社ユーラスエナジーホールディングス



詳細については、当社ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/risk/>

気候変動への対応（TCFD提言への取組）

SMBCグループではTCFDへの賛同を2017年12月に表明し、気候変動シナリオ分析を実施しているほか、低炭素社会の実現を目指すにあたって、気候変動に起因する課題の解決にお客さまとともに努めています。TCFDの提言が推奨する4つの項目に沿った対応は以下の通りです。また今後、TCFDレポートを公表し（2020年8月予定）、開示の高度化を進めていきます。



TCFD提言への取組に関する詳細については、当社ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/climate/>

目標：石炭火力発電向け貸出金

0
残高 (2040年度を目処)

項目		取組状況
ガバナンス		<ul style="list-style-type: none"> 「グループ環境方針」の制定 「サステナビリティ推進委員会」において、気候変動対応を経営戦略へと反映 経営会議や、取締役会の内部委員会である「リスク委員会」において、気候変動リスクに関する報告を実施
戦略	物理的リスク	<ul style="list-style-type: none"> RCP2.6シナリオ（2℃シナリオ）、RCP8.5シナリオ（4℃シナリオ）の下での水災発生時における想定と信頼係費用を、三井住友銀行における国内の事業法人を対象として分析。2050年にかけて累計300～400億円程度となる見込み。
	移行リスク	<ul style="list-style-type: none"> IEAの持続可能な開発シナリオの下での想定と信頼係費用を、三井住友銀行および海外現地法人におけるエネルギー、電力等のセクターを対象として分析。公表政策シナリオ対比、2050年にかけて単年度で20～100億円程度の増加となる見込み。 炭素関連資産（電力・エネルギー等）エクスポージャー比率：貸出金の6.9%^{*1}
	機会	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度に合計約6,300億円の再生可能エネルギー向けファイナンス組成 国際資本市場協会（ICMA）や環境省のガイドラインに準拠するグリーンボンド発行
リスク管理		<ul style="list-style-type: none"> 気候変動リスクをトップリスクのひとつと位置付け、ストレステストによる影響分析を実施 気候変動に影響を与えるセクター（石炭火力発電、石油・ガス、炭鉱採掘等）への方針策定 エクエーター原則に基づく環境社会リスク評価の実施
指標と目標		<ul style="list-style-type: none"> 2020～2029年度のグリーンファイナンス実行額10兆円 2029年度までに三井住友銀行のCO₂排出量を2018年度対比30%削減 2040年度を目処に石炭火力発電向け貸出金の残高ゼロ（プロジェクトファイナンスが対象^{*2}）

*1 より正確に移行リスクに晒されているエクスポージャーを把握する観点から、再生可能エネルギー向け貸出等を除外したもの

*2 カーボンサイクルに資する技術を付した案件等、脱炭素社会への移行に向けた取組に資する案件は除外

サステナビリティ経営の実践

Social

コミュニティ

人々の生活や経済活動が行われる中で、それぞれの主体がつながりを感じ、助け合い、安心して活動できるコミュニティが必要であると考えています。SMBCグループは、私たち自身もコミュニティの中で活動を行う一員としての社会的責任を全うするため、地域・社会への貢献を続けていきます。

GREEN×GLOBE Partners

現在私たちが直面している地球規模のさまざまな環境・社会課題はあまりにも大きく、個社や個人で解決することは非常に難しい状況にあります。一方、産官学民を問わず志を同じくする多くの仲間が集い力を合わせて対処すれば、課題解決へ向けてより実効性のある行動が実現できると考えています。

そこで、環境・社会課題に対してより多くの企業や人々が関心を持ち、解決に向けてともに取り組んでいくためのコミュニティとして、「GREEN×GLOBE Partners」を立ち上げました。

SMBCグループの知見を結集したさまざまなかつ有益な情報発信をはじめ、お客さまとともに課題解決に向けて一丸となって取り組むことを目指します。



ウェブサイトイメージ

新型コロナウイルス感染症の影響に関する地域・社会への貢献

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、お客さま、そして地域・社会の皆さまが、一日も早く安心して健やかな暮らしを送れることを願い、各種団体に対して総額15億円の寄付を表明しました。また、本感染症対策に取り組む非営利団体等を支援するため、グループ役職員の募金に当社のマッチングギフトを上乗せし、寄付を実施しています。

寄付先の一例として、本感染症の拡大防止や治療法の確立に取り組む医療機関・関連団体や、新興国の医療体制の整備に資する先に加え、先の見えない不安の中で心の健康を保つことも重要と考え、イベント自粛により運営維持が難しくなっている文化・芸術分野への支援も実施しています。

地域・社会への支援活動を通じて、誰もが安心して暮らせる活気ある社会の形成に貢献していきます。



© UNICEF/UNI329169/ljazah



新日本フィルハーモニー © K.MIURA

次世代

社会環境が変化していく中、経済や社会が持続可能であり続けるためには、必要な知識や技術を備えた社会を支える人材の育成が不可欠であると考えています。SMBCグループは、私たちとともに将来の社会を構築していく、次世代の人材や産業を育むことでサステナビリティを実現していきます。

金融経済教育の提供

SMBCグループは、総合金融グループとして有する知識やノウハウを活かした社会貢献活動として、金融経済教育の提供に取り組んでいます。2029年度までに提供者数150万人を目指し、グループ各社がさまざまな活動を進めています。

SMBCコンシューマーファイナンスでは、2011年度より、全国17カ所の「お客様サービスプラザ」において、「PROMISE 金融経済教育セミナー」を実施しており、2019年度には累計受講者数が100万人を突破しました。また、参加者ニーズの多様化に対応して、グループ各社と連携したキャッシュレスや資産運用をはじめとする提供プログラムの拡充にも取り組んでいます。

今後も、子どもから大人まで幅広い世代に向けて、金融経済教育を提供することで、誰もがお金に対する正しい知識を身に付け、安心して暮らせる社会の実現を目指していきます。

新規事業支援プログラムの実施

次世代の産業を支援する取組として、SMBCグループでは「未来」プログラムを開催しています。このプログラムでは、アイデアや技術の事業化を目指す方からビジネスプランを募集し、審査会を経て、事業開発に資するアドバイザリー支援、ネットワーキング、資金サポート等、多岐にわたる機会を提供します。

スタートアップや、これから起業する方々をサポートし、あらゆる企業・投資家等とつなぎ合わせることで、皆さまの成長とイノベーションを実現し、次世代産業の発展に貢献しています。

目標：金融経済教育の提供者数

150 万人 (2029年度まで)



セミナーで使用する教材例



ピッチコンテストの様子